

別紙 2

介護保険事業支援計画に記載した、市町村が行う自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組の支援についての目標（令和6年度）に対する自己評価結果

都道府県名： **山梨県**

**ア 取組の支援についての自己評価結果**

項目名

介護予防・健康づくりの推進（自立支援、介護予防・重度化防止の推進）

（数値目標）

- ・介護予防に資する「通いの場」への参加人数（令和6年度：20,000人）
- ・フレイル予防を実践する市町村数（令和6年度：全市町村）

目標を設定するに至った現状と課題

少子高齢化が一段と進む中、健康寿命の更なる延伸を図るためには、若い頃からの健康づくりや、フレイル（虚弱）といわれる心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）の低下防止に取り組むことが重要である。

特に、高齢者が自ら主体となって介護予防や、茶話会、趣味活動などを行う「通いの場」は、介護予防の効果と併せて社会参加を促すことにつながるとともに、豊かな地域コミュニティの基盤となり得る取組であり、更なる拡充が求められる。

本県の介護予防・健康づくりの推進のため、介護予防に資する「通いの場」への参加人数とフレイル予防を実践する市町村数を重要な指標として捉え、数値目標を設定した。

取組の実施内容、実績

通いの場の立ち上げ支援、市町村の介護予防の促進

- ・市町村の介護予防の促進を図るため、PT・OT・STの専門的知識や技術を活かした介護予防事業の支援（通いの場の立ち上げ支援を含む）等を行った（「PT・OT・STバンク」を設置しており、令和6年度は、3市町に15名派遣）。
- ・市町村がフレイル予防事業を効果的に取り組めるよう、フレイル予防アドバイザー（フレイル予防のノウハウを持つ専門職）をモデル市町村に派遣（令和6年度実績：2市町村に3回派遣）。

自己評価

	令和2年度 (基準値)		令和4年度	令和5年度	令和6年度
介護予防に資する 「通いの場」への参加人数	14,852人	目標	18,284人	20,000人	20,000人
		実績	9,517人 <small>(令和3年度実績)</small>	14,807人 <small>(令和4年度実績)</small>	16,286人 <small>(令和5年度実績)</small>
フレイル予防を実践する 市町村数	14市町村	目標	23市町村	27市町村	27市町村
		実績	23市町村	23市町村	26市町村

「通いの場」への参加人数①及び「フレイル予防」を実践する市町村数②について、令和6年度は、①目標の81%、②目標の96%の実績となった。

※ (①81% + ②96%) ÷ 2 = 88.5%

※複数項目に分ける場合には、項目ごとに様式を分けて記入する。

イ 管内保険者の自己評価結果の概要

ウ まとめ（ア及びイから考察した現状・課題と対応策）

高齢者と家族が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らし続けるためには、健康づくり、フレイル予防の取り組みにより健康寿命の延伸を図ることが重要である。特に、高齢者が主体となって介護予防、趣味活動等に取り組む「通いの場」については、介護予防と併せて社会参加につながることから、その立ち上げを支援していく必要がある。

市町村が、地域の実情に応じた効果的な介護予防・フレイル予防対策が行えるよう、アドバイザーを派遣する等、各市町村の取り組みに対し支援を行っていく。